

米地区で見つけた8月のトンボ (17種)

アオイトトンボ (アオイトトンボ科)



オスは成熟すると腹の先と胸が白くなり、また複眼も青くなる。池の抽水植物への産卵は8月になって観察できた。



オオイトトンボ・オス (イトトンボ科)



一番よく見かけるのは相変わらずオオイトトンボ。右の写真はメス。



モノサシトンボ・オス (モノサシトンボ科)



キイトトンボ・オス (イトトンボ科)



ほかのイトトンボが減ったように思える中、比較的よく飛んでいた。



米地区で見つけた8月のトンボ (17種)

ハグロトンボ (カワトンボ科)



鮭川が増水し、先月観察できたところで見つけることはできなかった。増水のせいなのか、季節の変化なのか、ハグロトンボの数は少ない。

オオシオカラトンボ・オス (トンボ科)



今月はあまり見かけることがなかった。メスは8月になってやっと観察。堤の斜面で止まっていた。



コシアキトンボ・オス (トンボ科)



相変わらず堤の水面近くを巡回している。あまりほかのところには姿を見せないし、止まらないためちゃんと写真を撮ることができなかった。

ハラビロトンボ・メス (トンボ科)



もうこの個体しかいなかったようにも思われる。オスの姿は見かけなかった。

ノシメトンボ (トンボ科)



8月に一番多く見かけたのはノシメトンボ。翅の先端が黒いのはほぼノシメトンボ。

オスは腹部が少し赤褐色になる。



リスアカネ・オス (トンボ科)



翅の先端が褐色で腹部がしっかり赤くなるのはリスアカネ。わずかに2回見かけただけ。メスは赤くはないが、顔面に眉状斑という鼻みたいな色がついていなければリスアカネの可能性大。



マユタテアカネ・オス (トンボ科)



腹部が赤くなり、その先端が反り返っているのはマユタテアカネ。まだ黄色い未成熟なオスの個体も混在。下はメス



ナツアカネ (トンボ科)



どこかに移動しているのか、ナツアカネも2回しか見かけなかった。赤くなりかかっている個体もあり。



オオヤマトンボ (ヤマトンボ科)



堤の水面近くを高速で巡回しているトンボを念のため撮影。今回もオオヤマトンボのようであったが、時間がなかったので撮り直しはできず。

ギンヤンマ・オス (ヤンマ科)



腹部にはっきりとした模様がないところで飛んでいてもどうにか見分けられる。クロス



ジギンヤンマは姿を消した。

オオルリボシヤンマ (ヤンマ科)



この時期、池を巡回していたのはオオルリボシヤンマが多かった。腹部の青い模様が特徴。



メスは単独で産卵するが、オスが監視している場合もある。

ルリボシヤンマ (ヤンマ科)



飛行していたトンボの写真を撮ってから確認してみると、どうもオオルリボシヤンマとは腹部の模様が異なる。

しかし再度撮影を試みたが、飛んでいなかったようで、この一回だけ。

オニヤンマ（オニヤンマ科）



オニヤンマが多すぎて、他のトンボが少なくなっているのではないかと、思うぐらいあちこちを飛び回っている。放棄水田の上空 1メートルほど、湿原へ向かう木道や遊歩道上、小さな流れの上など、あちこちでテリトリーを定めて巡回。

湿原の中の小さい流れの中で、何度となく産卵を続けるメス。

5月、6月、7月、8月で 33 種類のトンボを確認。

ムカシヤンマ（5月、6月）

コサナエ（5月、6月）

コオニヤンマ（6月）

シオヤトンボ（5月、6月）

アオハダトンボ（6月）

アジイトトンボ（5月から7月）

エゾイトトンボ（5月から7月）

オゼイトトンボ（5月から7月）

クロイトトンボ（7月）

モートンイトトンボ（5月から7月）

ニホンカワトンボ（6月、7月）

ヨツボシトンボ（5月から7月）

クロスジギンヤンマ（5月から7月）

ダビドサナエ（7月）

ショウジョウトンボ（7月）

アキアカネ（7月）

（撮影期間）

5月 7日～13日、26日～31日

6月 1日～2日、18日～23日

7月 10日～19日

8月 16日～20日